

11月号（平成28年）

## 学校生活の思い出

木々の色づきや朝夕の寒気に秋の気配を感じるようになりました。

10月中旬には学校の北校舎に沿うように植えられている十数本の金木犀がきれいに咲いていました。近くを歩いていると特有の甘いような香りが広がっていました。この香りは初秋の代表的なものであると思います。また、この香りは学生時代の初秋の様々な出来事を感じ傷的に思い出させるものになっているとも言われています。とはいえ、この成城高校の金木犀の木々も来年の校舎の建て直しの工事のためになくなってしまふことになりそうです。少し残念ですが、生徒たちには今年の金木犀の香りを学校生活の思い出として感じていてくれたらと思います。

この金木犀が咲いていた頃に、成城高校では遠足と修学旅行がありました。私は修学旅行の引率で生徒たちと北海道へ行ってきました。大阪空港での集合の際にも生徒たちは時間より早く集まり、スムーズに飛行機に乗り北海道へ行くことができました。そして昼からバスを利用して小樽へ行きました。この日は札幌や小樽では気温も2℃と冷え込み、初雪というあいにくの天候でした。小樽の運河前で集合写真を撮ったのですが、雪やみぞれが道路や屋根に少し積もっていて、運河とレンガ倉庫の景色もとても素敵でした。ちょっと寒かったですが、生徒たちは仲間とともに楽しみ満足いっぱいの笑顔でした。

二日目、三日目と、すべてのプログラムを生徒たちが皆で協力して盛り上げて仲間と楽しく過ごしていて、とても素晴らしい修学旅行になりました。楽しい時間はあっという間に過ぎていくものです。解散の関西空港で生徒全員が「とってもいい思い出ができた！」と言ってくれたことを嬉しく思います。

さて昔の成城高校についてお知らせします。定時制の課程は成城工業高校から成城高校となり、今年でちょうど10年になりました。10年ひと昔といいますが、その当時の記録や残っている写真など調べてみると、バスケットボールで全国大会に出場し、全国3位になったという快挙がありました。部員10名が胸に「Seijo」のユニホームを着て誇らしげに笑顔のVサインの集合写真のなかに青春の輝きがあります。今からみればすごいことですが、同じ成城定で学んでいた先輩たちであることを誇りにしていきたいと思っています。残された写真は淡くセピア色になっていますが、10年前に残した生徒たちの青春の輝きは、いつまでも心のなかに鮮やかな記憶となって残っていることだろうと思っています。

今月も最後までお読みいただきましてありがとうございました。

成城高校定時制校長 富田公一（とだこういち）